

## IFOMPT と JFOMPT

済生会西条病院 リハビリテーション科 山内 正雄

現在 WCPT は 12 のサブグループを認定しているが、その一つに IFOMPT がある。IFOMPT は、1978 年に WCPT に承認された最初のサブグループである。IFOMPT の創立は、1974 年の第 8 回 WCPT 総会の会期中に、各国の有名な運動器徒手理学療法士が集まり設立された。そこで、運動器徒手理学療法士の教育カリキュラムと認定試験を企画する教育基準委員会について話し合わせ、1977 年に教育基準文書が認定された。1978 年には WCPT もこの教育基準文書を認定している。そしてこの教育基準に基づいて養成された、運動器徒手理学療法士の集まりが IFOMPT である。

日本は、2008 年に日本整形徒手療法協会がこの教育基準をクリアして、IFOMPT の正会員に認定された。IFOMPT は原則として個人での加盟を認めず、国単位での加盟しか認めていない。会員は、正会員としての M.O. と準会員としての R.I.G.s の 2 種類だけである。M.O. の要件としては、1. 国家資格である理学療法士によって組織されていること、2. WCPT 加盟国であり、国を代表する理学療法士協会より運動器徒手療法分野での代表組織と認められて

いること、3. 組織の定款が IFOMPT の定款と統一性があり、教育基準も IFOMPT の基準と一致していること、以上の 3 点である。従って、IFOMPT が認証する教育システムで教育し、これを終了した者によってのみ組織され、理学療法士協会に認められている必要がある。

現在 IFOMPT が認定している教育基準は、大学院教育に準じた教育内容で、詳細は IFOMPT のホームページに公開されている。運動器徒手理学療法士に必要な基礎・臨床知識、研究方法・論文、臨床実習などの内容や時間数が規定されている。そして重要なことは、各国の教育内容が IFOMPT の教育基準文書に基づいて教育しているかの国際モニタリング(監査)が 6 年に 1 度必ず行われ、認定されないと M.O. を取り消される可能性もあることである。

今回の講演では、1. IFOMPT が認定する教育基準について、2. 国際モニタリングについて、3. 日本国内における会員について、の 3 点を中心に考えていきたい。

## 50 年に亘る義肢装具発展のあゆみと今後の展望

<sup>1)</sup>兵庫県立総合リハビリテーションセンター、<sup>2)</sup>神戸医療福祉専門学校三田校 澤村 誠志<sup>1,2)</sup>

私が切断者のリハビリテーションに取り組み始めた 1960 年頃は身体障害者福祉法による義肢装具支給制度があったものの、低価格に制限され、義肢装具の製作現状は海外先進国に比較して大きく遅れをとっていた。理学療法士法の設立前であり、義肢装具に関する情報の交換をする場さえなかった。そこで、1968 年に初めての日本義肢装具研究同好会を神戸で開催した。これが現在の日本義肢装具学会の発展の基礎となっている。その後、日本リハビリテーション医学会、日本整形外科学会に義肢装具委員会が設置され、「義肢装具に関する将来計画」を作成した。厚生省、労働省との連携の中で、医師の義肢装具に関する教育、義肢装具製作技術者の教育と資格制度、価格改正、義肢装具部品の標準規格化、JIS 用語の作成などに取り組み、国際的にみても優れた義肢装具システムづくりができた。

一方、国際的には、我が国は ISPO (国際義肢装具協会) へ参加

して、1989 年には厚生省をはじめ我が国の義肢装具関係機関のご協力を得て第 6 回 ISPO 世界会議を神戸で開催させていただき、素晴らしい評価をいただいた。その後、1997 年にアジア義肢装具学会を発会させ、昨年には第 1 回の世界義肢装具教育者会議を神戸で開催し、我が国初めてのカテゴリー 1 の資格獲得をした。このような経緯の中で、我が国の義肢装具領域における国際的な貢献については大きな評価をいただいている。

今後の期待としては、義肢装具の特定領域におけるグローバルな立場で活動する理学療法士の育成に尽きる。私自身の苦い経験から、次世代の方々に英語能力の習得をベースに、義肢装具・リハビリ工学の中でライフワークとして得意の専門分野を選択して、チームアプローチの中で研究を重ね、同じ分野で活動している海外の専門職との交流を図り、生涯の友人として情報を交換しながら、世界をリードする人材養成に多くを期待したい。